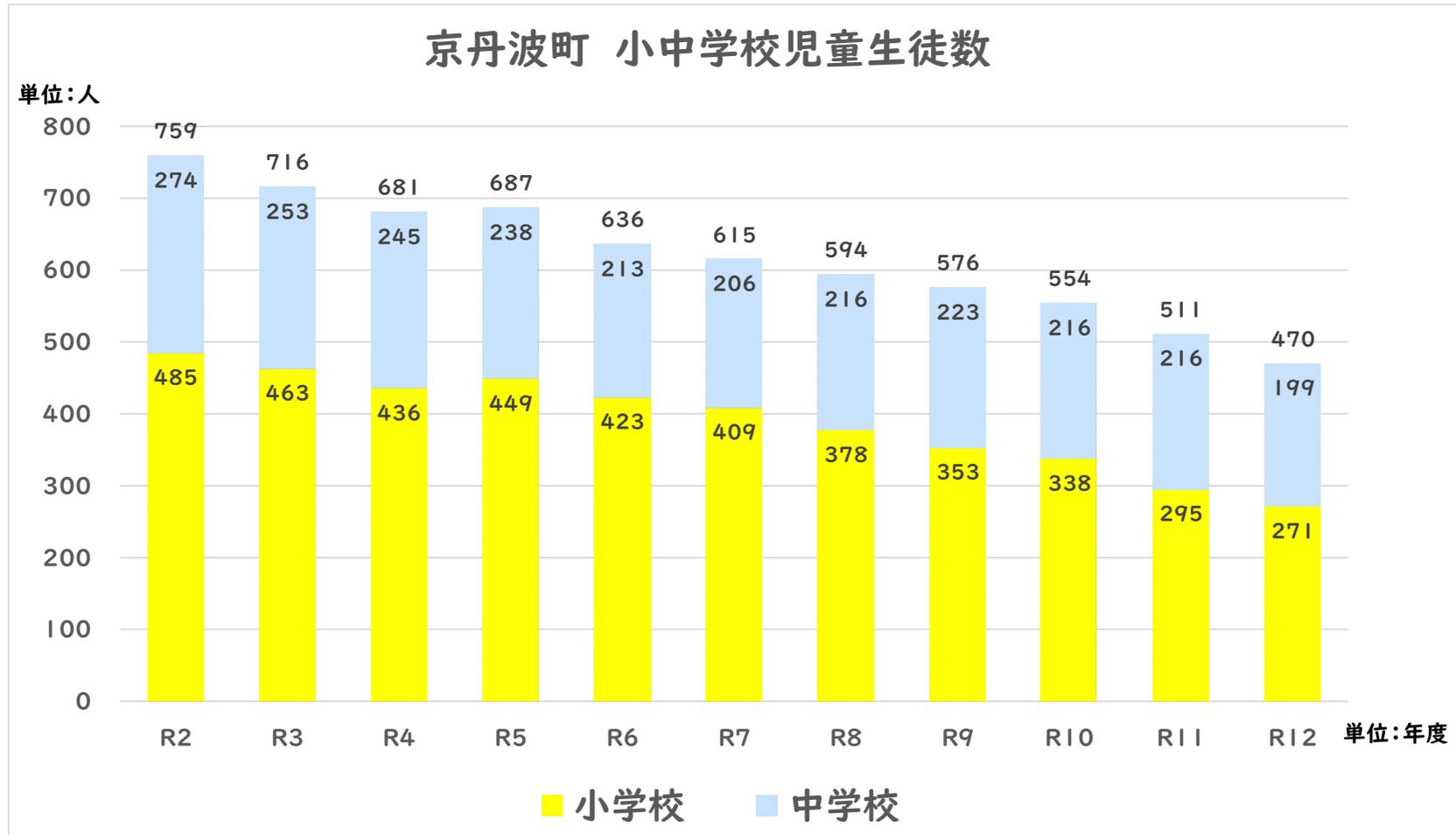


和知地区京丹波町立小中学校の あり方に係る保護者等説明会

令和7年11月27日

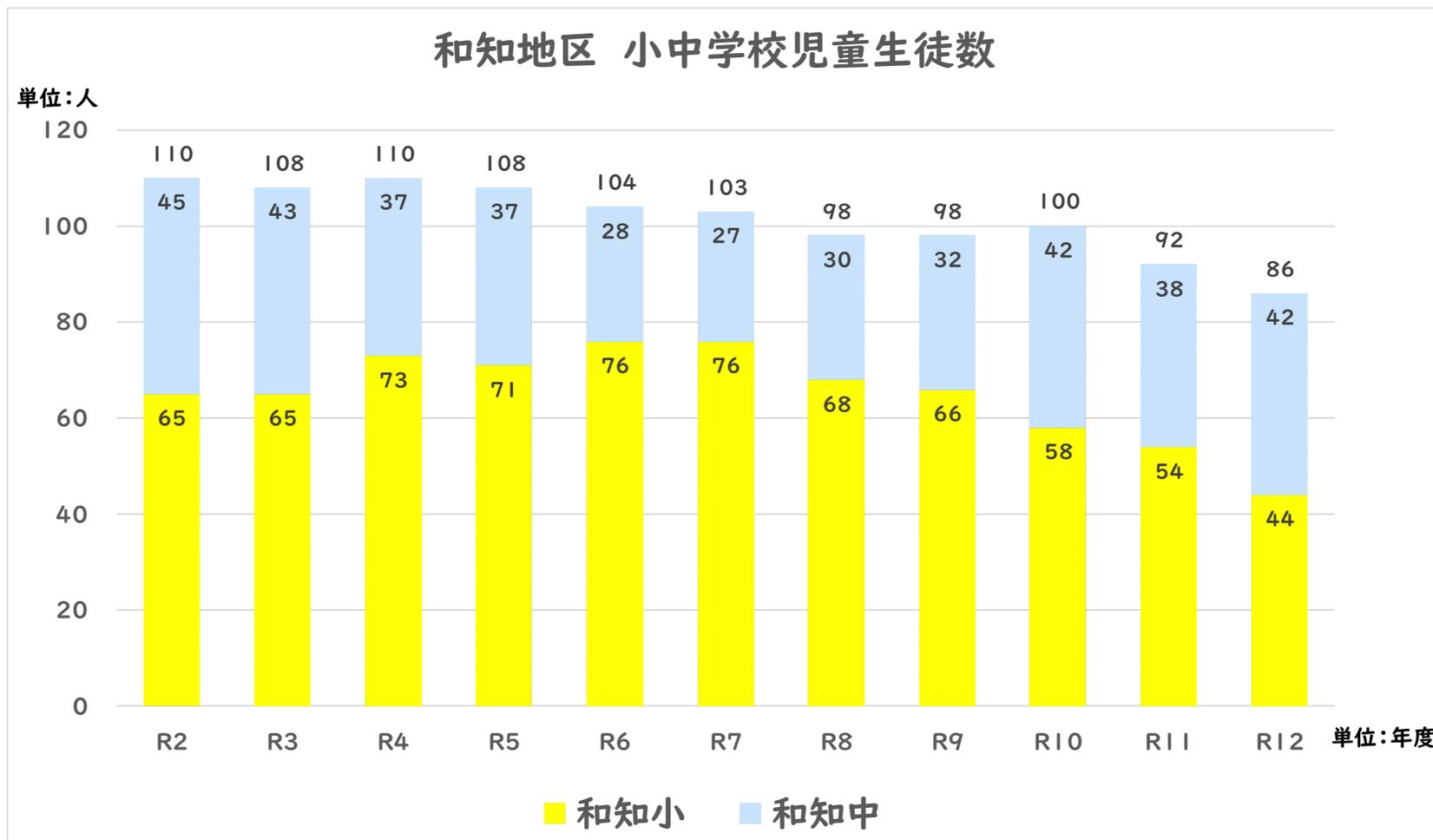
京丹波町教育委員会

京丹波町の小・中学校の児童・生徒数の推移



※R8年度以降はR6年度の未就学児の人数を元に推計

和知地区の小・中学校の児童・生徒数の推移



※R8年度以降はR6年度の未就学児の人数を元に推計

和知小学校・和知中学校連携教育推進事業【平成28年度～】

平成28年度の児童・生徒数

和知小学校：93名 和知中学校：66名

ねらい【連携推進事業計画報告書より（要約）】

和知地区における児童・生徒数の減少が続く中、集団的な学習活動、部活動等が制限され、適切な教育の保障が困難になると予想される。

このため小中連携を一層進めることにより、中1ギャップの解消、不登校の未然防止、学力の向上を図るとともに、小中一貫教育の視点に立った今後の和知地区の教育のあり方を考察することが必要。今年度は、下記の3点に視点を当てた取組を進めることで、9年間を見通した小中連携のあり方を見出したい。



<連携内容>

- | | |
|------------------|--------------------------------------|
| 1 研修を通した小中連携 | 小中合同研修会、授業交流会等 |
| 2 交流を通した小中連携 | 小学校：中学校文化祭の鑑賞
中学校：小学校行事への参加、合唱の披露 |
| 3 学習（授業）を通した小中連携 | 英語、美術の出前授業 |

和知地区の小中学校のあり方を検討するに至った経過

＜学校運営協議会からの意見上申＞（令和7年2月18日）

＜和知小学校＞ 『和知小学校と和知中学校の小中一貫教育校の推進を含めた検討を』

- ・小中一貫校への移行について、多数の保護者から肯定的な意見を得た。
- ・早急に結論を出すのではなく、保護者等の声をよく聞いて進めてほしいとの意見が複数あった。
- ・旧町単位を越えた学校の在り方や学校選択制を望む声も少数ではあるがあった。

＜和知中学校＞ 『和知小学校と和知中学校の小中一貫教育校の推進や町内の他の中学校との合同など、幅広い検討を』

- ・他の中学校との合同を求める意見と和知小学校との一貫校を求める意見がほぼ同数であった。
- ・少数ながら、現状の維持を求める意見もあった。
- ・和知小学校やわちこども園の保護者の声を聞いてほしい。



京丹波町総合教育会議において、和知地区における小・中学校のあり方を検討するための検討委員会の設置を決定（令和7年2月20日）

和知地区の小中学校のあり方検討委員会の設置

＜あり方検討委員会への諮問内容＞

少子化が進行することに対応し、和知の地域の実情をふまえた、児童・生徒の学びを保障するための、和知小学校と和知中学校の望ましい学校のあり方について諮問する。

＜検討にあたる際の留意事項＞

- ①小・中学校が小規模化していることによる課題点とその改善を図るために必要なこと
- ②和知小学校で進められてきた「地域学校協働事業」の果たしている役割
- ③和知小・中学校で実施している地域の伝統文化を学ぶ取り組みの意義と役割
- ④平成28年度より実施している和知小学校と和知中学校との小中連携事業の成果と課題
- ⑤和知小・中学校が、地域との連携において果たしてきた役割
- ⑥小中一貫教育校の検討にあたっては、今後の児童生徒の在籍見込みに基づく持続可能性

和知地区京丹波町立小中学校のあり方検討委員会の構成

選出区分	所属等	氏名	検討委員会
学識経験を有する者	立命館大学大学院教職研究科准教授 (京丹波町教育政策アドバイザー)	井戸 仁	会長
和知地区小中学校の保護者を代表する者	和知小学校 P T A 副会長	河谷 尚都	
和知地区小中学校の保護者を代表する者	和知中学校 P T A 庶務・会計	原田 美希	
和知地区区長会の代表者	和知地区区長会 副会長	才村 路子	
和知地区学校協働活動に関係する者	京丹波町立和知小学校地域教育協議会 (うらら会) 副会長	大田 有次	副会長
伝統文化に関係する者	京丹波町民芸保存会	春田 貢	
公募による町民	公募委員	早川 公雄	
公募による町民	公募委員	川中 愛映	
公募による町民	公募委員	森瀧 ひろ香	

あり方検討委員会の検討経過等

開催日等	主な検討内容
<p>令和7年7月17日 第1回検討委員会</p>	<p>①和知地区の小中学校のあり方を検討するに至ったこれまでの経緯について ②京丹波町と和知地区の出生数及び児童生徒数の推移について ③現在取り組んでいる和知小学校と和知中学校の小中連携の取組内容について ④文部科学省の資料に基づく小中一貫教育制度等について ⑤和知地域のバス通学の現状等について ⑥京丹波町立中学校で導入を検討している部活動拠点方式について</p> 
<p>令和7年8月22日 第2回検討委員会</p>	<p>①近隣の義務教育学校（9年間）の児童生徒の教育環境について ②近隣（亀岡市、綾部市、福知山市）の小中一貫校の状況について ③和知地区における地域資源について ④交流協議 <ワークショップ> テーマ：「子どもの学びと地域、それぞれのメリット・デメリット（課題は何か）」について ・考え得る小学校中学校の学びの形態を3つに分類 ①小中一貫校を採用した場合 ②和知中学校を統合した場合 ③和知小学校及び和知中学校をそれぞれ他校に統合した場合 ・それぞれ学びや体験はどうか、通学はどうか、地域との関わりはどうかなど メリット、デメリットについて検討</p>
<p>令和7年9月25日 第3回検討委員会</p>	<p>①京丹波町立中学校の部活動拠点方式導入におけるアンケート結果について ②新たな義務教育の仕組み「山県学園構想（岐阜県）」について</p>
<p>令和7年10月22日 第4回検討委員会</p>	<p>①京都府内の他市町村の部活動拠点校方式の状況について ②国による「令和の日本型学校教育」を推進する学校の適正規模・適正配置の在り方に関する調査研究協力者会議で配布された資料など、学校の在り方を巡る国資料について ③和知中学校におけるキャリア教育の概要について ④交流協議 <ワークショップ> テーマ：「中学校が統合した場合、和知の小中学生にどのような効果や影響が考えられるか」 ・統合によるメリット、デメリット、和知地域の子どもの心を育てているものは何か、大切にしたい環境などについて検討</p>

あり方検討委員会の検討経過等

主な協議内容

<下記の3つの場合を想定し、そのメリット・デメリットについて検討>

- ①小中一貫校を採用した場合について
- ②和知中学校を統合した場合について
- ③和知小学校及び和知中学校をそれぞれ他校に統合した場合について

あり方検討委員会の検討経過等

①小中一貫校を採用した場合についての主な意見

<メリット>

- ・ 9年間を通じたカリキュラムを組むことができる。
- ・ 小学校においては、中学校教員の専門的な指導を受けることができる。
- ・ 中学校入学期の不安な時期に、小学校から中学校まで幅広い教員のサポートが得られる。
- ・ 小中連携の取組や伝統文化の継承、地域と連携した取組が継続できる。
- ・ 和知の子は郷土愛、母校への思いが強い。地域との関りの強さがあるからであり、このつながりは今後も残していきたい。
- ・ P T A活動や組織を見直せるのではないか。

<デメリット>

- ・ 少人数できめ細やかであることは良いが、9年間同じメンバーのため、人間関係が固定化するのではないか。
- ・ 環境が変わらないことで変化に対応する力が育ちにくい。
- ・ 多くの人数の中での学びや刺激が少ない。
- ・ チーム競技など、ある程度の人数がいることが必要な活動もある。



あり方検討委員会の検討経過等

②和知中学校を統合した場合についての主な意見

<メリット>

- ・他の地域や生徒との関りや交流を持つことができ、新たな刺激、気付きがある。
- ・地域行事や文化について、学べる範囲が広がる。
- ・クラス替えができる。
- ・部活動や人数を要する活動の選択肢が広がり、チームスポーツなどは成り立ちやすい。
- ・より幅広い人間関係ができる。

<デメリット>

- ・通学距離の負担が大きく、親の送迎の負担も増える。帰宅時間も遅くなる。
- ・小中連携（音楽・図工・体育・外国語・数学・理科）の取組の継続が難しくなる。
- ・伝統文化（和知太鼓、和知人形浄瑠璃）の取組の継続が難しくなる。
- ・地域の方々との関わり合いが減少する。（希薄になる）
- ・地域から学校がなくなるという合意形成がまだできていない。
- ・中学校を統合するとそれぞれの特色が失われるのではないか。
- ・中学生の多感な時期に、小さいエリアから大きいエリアに行ってなじめるか心配



<その他の意見>

- ・統合をしなくても、集まる機会を増やすことで、集団の機会も得られるのではないか。
（毎日でなくても良いので、例えば、蒲生野中学校に行ったりする機会があれば良いのではないか。）

あり方検討委員会の検討経過等

③和知小学校及び和知中学校をそれぞれ他校に統合した場合についての主な意見

<メリット>

- それぞれの小・中学校が統合すると町内の一体感が出る。
- クラス替えができる可能性がある。
- 他の地域の刺激により、高校進学時のギャップを減らせるのではないか。



<デメリット>

- それぞれの地区（和知）の特性が失われていくのではないか。
- 通学距離の負担が大きく、親の送迎の負担も増える。帰宅時間も遅くなる。
- 和知地域から学校がなくなり、地域の衰退に繋がりがねない。
地域活性化に影を落とす可能性がある。
- 地域の理解を得るのが難しい。工夫が必要
- 小規模校の方が、一人ひとりがリーダーとなり、活躍する場面が多く、子どもの可能性を引き出しやすい。

あり方検討委員会の現時点での中間的な評価

①これまで進められてきた小中連携、地域連携について

- ・小中連携の取組が学びや成長に大きく寄与しており、今後も生かすことが望ましい。
- ・地域に支えられ豊かな体験や学びができており、和知の伝統芸能、伝統文化の継承にもつながっている。

②中学校が小規模化していることが及ぼす影響について

- ・和知中学校の小規模化が、人間関係の固定化や多様な学びや活動の制約となっている。
- ・和知中学校の統合も考えられるが、現行の和知中学校を維持したうえで、集団での学びや活動ができるよう、他の中学校との共同学習を進めることも考えられる。
- ・学校の小規模化はデメリットもあるが、もう一方で、きめ細やかな指導支援が可能となる。一人ひとりに役割があり、自立や成長につながっていることにも留意する必要がある。

③小・中学校の統合について

- ・学校の統合は、一定規模が確保できる点においてはメリットがある。
- ・一方で、通学範囲が広がり児童・生徒や保護者の負担が大きくなる。
- ・地域との関係性の希薄化による学びのメリットの減少が懸念され、地域への影響も懸念される。

④他の地域の取組で参考になったことについて

- ・単なる現状維持でもなく、統合でもない、新たな学校のあり方を模索する岐阜県山県市の学園構想は、新たな発想による学校づくりとして参考になるのではないかと。

あり方検討委員会 今後のスケジュール（案）

今年度の京丹波町総合教育会議で答申を

開催予定等	内容等
令和7年11月27日 保護者等説明会	①検討委員会での検討状況について（報告） ②質疑等
令和7年11月27日 ～12月4日	アンケート受付期間
令和7年12月18日 第5回検討委員会	保護者及び地域からの意見等を踏まえた検討委員会における 意見の集約及び論点整理について
令和8年1月 第6回検討委員会	答申案の取りまとめ
令和8年2月	教育委員会への答申
令和8年2月～3月 総合教育会議	町への答申の提出
令和8年度	答申に基づく取組の推進

ご清聴ありがとうございました